

足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

あだち

第71・72号

令和4年2月16日

編集発行

足立区青少年委員会

広報部

足立区教育委員会

青少年課

<http://adachi-seishounen.jp>

コロナ禍で制限された青少年委員活動



午前の部従事



午後の部従事



入口検温



会場案内

「成人の日の集い」入退場の規制を行い、会場内外で
新型コロナウイルス感染対策が講じられました

新型コロナウイルス感染症は10月に制限が緩和されましたが、オミクロン株が発生し急速拡大に現在も先が見えない状況にあります。

令和2年3月以降の約2年間、青少年委員会の事業・行事も中止となりました。

今年度は感染対策を講じながら少數のブロックが教育懇談会を実施し、新任委員も参加することができました。学校・地域などで活躍するためにも各ブロックの校長先生・PTA会長に顔を覚えてもらい、連携を取つて活動に役立てて貰いたいです。

教育懇談会では、各校がコロナ禍の対策において「手洗い・うがい・消毒」を徹底しており、PTAの方々も水道蛇口をレバー式に交換したり、消毒液の手配・登下校の付き添いの協力をしている等の報告がありました。

各校の校長先生からは、子供たちも自然教室や修学旅行等の実施で笑顔が出てきたとの話がありました。一日も早く収束し、青少年委員が笑顔と一緒に活動できることを願っています。

足立区青少年委員会会長
多島 三好

新年度こそは

着任のご挨拶



足立区教育委員会教育長
大山 日出夫

教育委員会には、平成9年4月に体育課体育管理係主査に配属になりました以来、16年間に亘って在籍させていただき、青少年委員の皆様にも大変お世話になりました。今回、教育長となり、改めて抱負はと聞かれるとやはり「学力向上」とお答えしたいと思います。来年度の予算では人工知能を活用したA.I.ドリルを導入していくないと考えており、これにより子供たちそれぞれの苦手分野を解消していくことが可能となるものと考えています。子供たちは自信をもつて社会に飛び立てるよう取り組んでいきたいと思っています。しかし、勉強も大事ですが、こころの教育ももちろん大事だと思っています。地域の方々が企画していただいた事業に子供たちが参加・体験することで、勉強だけではなくなかなか地域の活動が厳しい中ですが、引き続きお力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

教育懇談会

第6ブロック 大串 朋嘉

7月2日、東加平小学校において、下河邊青少年課長、青少年委員会多島会長を迎えて教育懇談会を開催しました。

例年であれば、各学校の特色・教育内容・地域性などのお話を議題にのぼったと思いますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、議題も大幅に制限された内容に変更して、校長先生のお話のみの懇談会となってしまいました。

コロナがまん延している中で、学校行事をどのようにしたら行えるか、そして出来る事が限られた中で、子供たちに学校生活の良い思い出をどのように残してあげられるかなど、各校長先生方も限られた時間にもかかわらず、意義のある熱いお話をしていただきました。

各校の青少年委員も新たな気持ちで学校・地域と関わっていかなければと思いました。



まだ先が見えません
が、子供たちの学校生活の思い出を作る
ために、各校の青少年委員がブロック一

丸となつて頑張つていかなればならないと感じました。

み切りました。
学校内では20周年マスコットキャラクター「コンクール」、周年歌の作詞、式典当日に展示しようとした絵や工作等、20周年をお祝いしようと学校全体がいつも以上に賑わいを見せっていました。

式典についてはご来賓を含め、出席者が制限された中、今回は6年生が児童代表として式典に参加、まさに「子供たちの20周年」となりました。

10月30日、晴れ渡る空の下、千寿小学校にて創立20周年式典が挙行されました。

コロナ禍での式典の開催について

は学校内でも意見が分かれましたが、信田校長の「誰のための周年行事なのか?」の意見と千寿小学校のモットーである「こどもファースト」とのことから子供たちのための周年式典であるとの結論で開催に踏

れていました。

また、式典が終了した後は6年生による20周年歌、ボレロの演奏が披露され、どちらも素晴らしい完成度でした。

コロナ禍での、新しい周年行事の形を作ったと感じました。

千寿小学校創立20周年式典

第1ブロック 若色 昭夫



実施日	学校名	周年数
10月30日	千寿小学校	20
11月6日	渕江小学校	120
11月6日	東渕江小学校	110
11月13日	東伊興小学校	50
11月13日	皿沼小学校	40
11月20日	花畠西小学校	50
11月20日	足立入谷小学校	20
11月20日	栗島中学校	40
11月27日	花畠小学校	120
11月27日	東島根中学校	60
12月4日	中川北小学校	50
12月11日	島根小学校	60
12月11日	千寿常東小学校	20
2月26日(予定)	千寿桜小学校	30

1学年 総合的な学習

職業人の話を聞く

第11ブロック 酒井 廣



伊興中学校（1学年）での総合的な学習「働くということ」のカリキュラムの一部で「実際に働いている方から話を聞く」に於いて職業人を集める術がないとの相談を受け、生徒の興味を持ちそうな職業人の選定、依頼、講話内容から当日実施までをサポートさせていただきました。

講師は、アーティスト系で、トランペット奏者、映画監督、イラストレーター、公共系で自衛官、警察官、消防士、民間企業でIT会社と7職種の方々に決定しました。

その後授業の目的と主旨を前田副校長先生、戸田先生と講話内容や、当日の流れなどをメールや学校で打ち合わせしました。

なるべく複数の職種の話を聞かせたいとの

事から、7つの教室を

講師が移動し、3回ずつ講話する

ことで生徒には3職種の話を聞けるようにしました。

1回20分

講話当日、戸田先生より「今年の1学年は元気なので大変かもしれません」とお話いただきましたが、実際にはとても真剣なまなざしで、メモを取りながら一生懸命聞いてくれました。講師の部屋移動もすべて生徒がコンシエルジュをしてくれてスムーズな移動が出来たと思います。

講師の皆さんも緊張気味なスタートでしたが、生徒たちのそのような姿勢を感じ、回をこなす毎にリラックスされ、最後はとても楽しかったと感想をいただきました。

なにより生徒たちがとても喜んでくれたこと、先生方も「新しい授業で大成功だ」とおっしゃっていました、「イラストや動画を合わせてTVなどに流している事を知りすぎました」

だき、青少年委員として安堵すると共に、携わっていただいた方々に感謝しかありませんでした。

自衛官・渡邊充泰

「災害救助や宇宙の衛星管理まで知り、すごく興味がわきました」

「自衛隊は怖いイメージだったけど、とてもユニークでお話が分かりやすかった」



くおもしろかったです

（敬称略）

消防士・浦田照之 有川佳歩
「女性も活躍できるということに驚きました」「火事や水害以外にもいろいろな仕事があることを知りました」

警察官・奈良拓弥 田中政善
「逮捕してからの仕事が大変だということを知りました」「警察についてもっと調べたいと思いました」

映画監督・YORIYASU
「CMや、YouTubeの仕事をもっていることを知りました」「制作物を見た人が行動することで社会貢献している事を知りました」

IT会社・酒井廣
「ITを身近に感じることができました」「インスタグラムにもプログラムがある事を知り、感謝して使おうと思いました」「どんな仕事でも自信をもつてしつかりやれば感謝される、という言葉が心に残りました」

成人の日の集い



実行委員 午前の部

石井佑志朗

岡本真佑奈

黒井菜穂子

近藤さくら

佐々木航弥

田中綾乃

山本奈央
(敬称略)

実行委員 午後の部

赤岩茜音
芦田大輝
小野寺愛
黒井菜穂子
櫻井琢斗
鈴木陽之介
山本奈央

(敬称略)



令和4年1月10日、皆様のおかげで私たちは素晴らしい成人の日を迎えることができ、大人としての第1歩を踏み出しました。

今年度のテーマは、「アダチ新世紀宣言6204※の未来が幕を開ける」です。まず、「6204※」という数字は、足立区の新成人の人口数です。次に、「アダチ新世紀宣言」とは、21世紀最初の年に生まれた私たちが、昨日の自分を越え、未来に向かって精進する宣言の場にした

い。21世紀最初の年に生まれた私たちが新時代を切り開く主役になります。今までの20年間を振り返り、更に突き進む勇気が持てるような成人式にしたいという想いを込めました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、午前・午後の2部制、また、会場での有観客とオンライン生配信での開催となりました。例年とは異なりましたが、沢山の方々のご尽力賜りまして、一生忘れられない思い出を作れました。感謝申し上げます。

私たち新成人は、足立区で得た全てのものを生かし、立派な一人の人間として輝かしい未来を歩めるよう邁進して参ります。

実行委員あいさつ

成人代表 山本 奈央

新成人の皆さんへ

青少年委員会副会長 遊馬 正子

区内の新成人に向けて令和4年の「成人の日の集い」が実施されました。コロナ禍で入場人数を制限し、午前と午後の2回に分けて開催、オンラインでも配信されました。ソーシャルディスタンスをとりマスクの着用、検温や消毒等の感染対策を行い2年ぶりの会場開催となりました。多くの新成人が参加し、色とりどりの振り袖姿が本当に鮮やかでした。

今年のテーマ「アダチ新世紀宣言」には、昨日までの自分を超えて、未来へ邁進していく宣言の場にし、新しい時代を切り開く主人公になつて欲しいとの想いが込められました。

「これから踏み出す社会に想像もつかない問題や困難が立ち塞がつても、自らを律し力強く歩んでいく」との誓いの言葉に頼もしさを感じました。近年の新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまでとは違う世の中の流れを、どうか前向きに受け止め、活躍されることを期待します。

「皆さんの未来が足立区の未来」との近藤区長の言葉のとおり、将来を皆さんに託し、足立区がより良く発展していくことを願っています。

区内新成人：6,247人 令和3年12月1日現在

参 加 者：午前の部 1,633人

午後の部 1,523人



午前の部 木島 俊江

本年度はコロナ感染を鑑み、2回に分けての開催となりました。例年と違い、検温と消毒をしてからの入場となります。

曇り空で寒さも厳しい日でしたが、晴れ着に身を包み、新成人としての気持ちを新たに式典に望んでいたと思います。午前の部は11時から45分と短縮されて行われました。

本年度のテーマ「アダチ新世紀宣言6204の未来が幕をあける」を掲げ、力強い誓いの言葉がありました。

また、アトラクションとして、和太鼓グループ彩のパフォーマンスが新成人に花を添えました。

短い時間での式典でしたが、コロナ禍での開催にも関わらず、大勢の新成人の参加がありました。

午後の部 佐藤 健一

午後の部も、午前同様に検温、消毒、手荷物検査を受けてから順序良く入場し、式典が始まりました。

まず、声を出さずに心で歌うようアナウンスがあり、国歌斉唱が国歌静聴として厳かに会場内に響き渡りました。コロナ禍の式典に出席している事を実感した瞬間だったた



また古性区議会議長より、若者にもっと政治への関心を持つて、将来足立区の街づくりにも参画してほしいとお言葉をいただきました。

12月に行つた部会にて、今後の活動の予定、何ができるかを話し合い、今年度も残りわずかとなりましたが、事業部一同一丸となつて励んで参りたいと思います。一日も早く活動が再開できることを願つております。

今年度の事業部の活動は、コロナ禍の中、5月端午の節句の飾りつけを行いましたが、以降行事が全て中止となつたため、ほぼ活動ができな

事業部の活動

事業部長 渡邊 淳子



… 本庁舎アトリウムに端午の節句の飾り付け …

研修部 フォローアップ研修会 10月19日 研修部長 関本 義則

今年度のフォローアップ研修会は、18名の新任委員の方と正副会長、研修部執行部員がグループディスカッションを行いました。

まず初めに青少年課下河邊課長より青少年委員という根本的な役割のお話がありました。

コロナ禍ということもあり多くの新任委員の方が活動を出来ていないことをふまえて、正副会長の経験談や他ブロックの活動方法など、活動が制限されている中での学校へのアプローチの仕方や地域への関わり方などについても具体的な意見がたくさん出て、全体的に充実した研修になったかと思います。

開催に際し、コロナ禍という事で懸念もありましたが、参加していただいた多くの新任委員の方々からは、「たくさんのアドバイスと違った視点から青少年委員の活動をみることができた」、「今後の活動に生かしていくたい」と感想が寄せられました。フォローアップ研修を今後の活動の糧にしていただければと思います。

研修部として無事に開催できたことを感謝しております。

悩める新任委員たち

第5ブロック 三國 美香

当日は感染防止のため新任委員のみの研修会の開催となりました。

青少年課下河邊課長より、子供の貧困対策の推進では「子供の経験・体験」や「地域との関わり」を強化している中、子ども食堂で子供たちがお手伝い等の形で活動できる仕組みができれば、食べる側だけに留まらず、サードプレイス（第3の場所）としての新たな一面も構築されるのではないか、とのご指摘がありました。「このアイディア実現に向けて、青少年委員の活動に期待する」とご挨拶をいただきました。



その後、事前アンケート結果を基にグループ討議を行い、様々な意見と先輩方のアドバイスを伺いました。活動自粛中でも自分のアンテナを拡大して情報を収集し、出来る事を楽しみながら働きかける結果が、自分の枠を広げる事にもなる。また、地域・子供との関わり方には各委員の出自により異なるので、自分なりのカラーや強みを生かして、学校・地域に寄り添った活動を目指したいと強く思いました。



第3ブロック
阿出川 忍



第2ブロック
前田 博司
江南中学校担当
令和3年
5月1日から委嘱

新任委員紹介

寺地小学校担当
令和3年
5月1日から委嘱

フォローアップ研修会に参加して

第1ブロック 田辺 智紀

例年は委員全体が対象の研修とのことですが、昨年度は開催されず、今年度も新任委員のみ対象と新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した研修でした。



このような時期ですから普段の活動も大幅に制限され、「果たして今自分が行っている活動で十分なのだろうか」不安を抱えておりました。グループディスカッションにおいて他の委員の方のお話を聞いていく中で、皆様も同様の不安を抱えているのを感じました。また意見交換を続けていく中で、色々な活動情報を聞くことで「形にとらわれず今、最善と思った活動を確実に実行しよう」と今を前向きに捉えることができ、晴れ晴れとした気持ちが持てました。

まだまだ先が見えませんが、先輩方や同期と一緒に子供たちのために青少年委員としてできる事をしっかりと取り組んでいこうと思いを新たにできました。

「だより」の発行により、その一端でも多くの方に知つていただきため、広報部が担う情報発信基地としての役割を、これからも果たして参りたいと思います。

かつてないパンデミックに見舞われ、あらゆることに制限の網が掛けられた中で、思い通りの活動ができない2年間。同じような事態が再び起ることも考えられる今日。強く感じたのは、SNSの普及で一方的におしよせる情報の波を冷静に受け止めて、俯瞰して見極める判断力的重要性でした。

編集後記 副部長 遠山辰雄